



■佐渡島内のトキの動き（2015年12月）

あけましておめでとうございます。今年もトキかわら版をよろしくお願いいたします。

- 12月中旬までに、野生下のトキのうち3羽程度について、繁殖期に近づくと現れる羽色の変化を確認しました。他の個体も今後着色していくこととなります。（詳しくはトピックで紹介しています）
- 12/7に、9月下旬以来2ヶ月以上確認されていなかったNo.206（第12回放鳥・4歳オス）が、新穂地区で確認されました。
- 12/28に、No.177（第10回放鳥・4歳オス）とNo.199（第11回放鳥・4歳メス）が木の上で擬交尾をしている姿が確認されました。擬交尾は繁殖期によく見られる求愛行動です。今後このような行動が島内各地でみられ、ペア形成が進んでいくこととなります。
- 10/17に真野地区で保護されたNo.194（第11回放鳥・4歳メス）は、ケガをした脚の治療を継続しています。



▲新穂地区の木の上で擬交尾する
No.177 と No.199



▲両津地区で飛翔する No.87,97,92,A26,
A27 を含む6羽

■本州のトキの動き

- No.04(第1回放鳥・11歳メス)は11/21以降七尾市内で確認されており、12/22にも水田で採餌したり、松の木の上で休息する様子が観察されています。
- 12/21に新潟県新潟市内でNo.226（第13回放鳥・4歳メス）が確認されました。同個体は水田で採餌し、飛翔する様子などが観察されています。本州側で確認されたトキは14例目となります。

☆トピック ～トキの羽色変化～

トキは繁殖期が近づくと、首のあたりの黒い皮膚が厚くなり、粉状になってはがれ落ちます。これを水浴びの後にこすりつけることにより、頭から背中にかけて羽根の色が黒く変化します。黒くなった羽根は、トキが繁殖可能な状態であることを示すとともに、巣で卵を抱く際の保護色の役目を果たすとも考えられています。

このように着色した羽根は「生殖羽」とも呼ばれ、2月頃にかけて順次着色していくこととなります。



▲着色した個体(左)と未着色の個体(右)

■生息範囲ごとの個体内訳（12月28日時点） ～島内に153羽程度、本州に2羽～

生息範囲	羽数	オス	メス	性別不明 (野生生まれ)
新穂・両津・ 金井地区	98羽	08 23 50 67 85 87 91 92 98 106 107 108 110 135 136 137 138 143 146 161 169 170 172 174 176 177 179 186 187 204 205 206 207 209 211 212 213 214 215 216 233 A02 A09 A16 A18 A19 A22 A32	03 25 26 80 93 95 97 114 120 122 148 149 154 156 157 163 181 182 183 184 190 192 195 199 200 202 203 217 218 219 220 222 223 224 225 227 229 230 232 234 236 237 239 240 A04 A11 A21 A23 A26 A27	20羽
真野・畑野・佐 和田・相川地区	18羽	33 68 72 74 81 A13 A25 A28	38 66 78 96 127 201 A01 A03 A10 A14	
羽茂地区	13羽	11 48 71 84 86 90 221 238	69 79 134 180 A24	
本州	2羽		04 226	
居場所不明	4羽	208	196 231 235	
計	155羽	65羽	70羽	20羽

※No.144,A15,A29,A30 が行方不明扱いとなりました。

※太字は若鳥。地区別の羽数に性別不明の個体は含まれていません。

■トキに関するニュース

12月1日 河崎小学校の6年生が野生復帰ステーションを見学し、トキの生態や順化訓練などについて学習しました。

12月8日 トキを活用した地域づくり意見交換会をトキ交流会館で開催しました。野生トキ観察施設の基本構想やトキ観察のルール of 普及啓発などについて意見交換を行いました。

12月14日 北陸農政局が実施している「田んぼと蛙の生きもの調査」の報告会が開催されました。

12月17日 第8回トキ飼育繁殖小委員会を新潟県自治会館で開催しました。平成28年の飼育トキ繁殖計画などについて議論が交わされました。



▲トキ飼育繁殖小委員会の様子

■1月の会議・イベント等お知らせ

1月8・15・29日 18時～20時

新潟大学「朱鷺の島地域再生人材創出事業」佐渡農業・環境講座がトキ交流会館で開催されます。

第1回「農地の自然再生」

第2回「環境保全型稲作の経済的課題～米市場、農業経営、支援施策から考える」

第3回「田んぼの水環境と生物」

入場無料。詳細は新潟大学朱鷺・自然再生学研究センターまで（Tel:0259-22-3885）

1月15日 「『つなげよう、支えよう森里川海』ミニフォーラム in 佐渡」を14時よりトキ交流会館で開催します。森里川海をつなげる地域の取組・自然資源の活用による地域活性化に向けた取組を紹介し、佐渡市の豊かな森里川海と地域づくりの“これから”を考えます。参加費は無料です。詳細は下記発行者まで。

発行者：環境省佐渡自然保護官事務所（0259-22-3372）



■佐渡島内のトキの動き（2016年1月）

佐渡島内では水田に雪が降り積もったこともあり、トキの餌場が変化しました。また、2歳以上のほとんどの個体について羽色変化が始まっており、繁殖期を迎えつつあります。

- 1/22 に、野生復帰ステーションに収容していた No.194（第 11 回放鳥・4 歳メス）が死亡しているのを確認しました。同個体は 2015/10/17 に真野地区で脚を痛めてほとんど動けない状態で保護され、ケガをした脚の治療を行っていました。死因は不明です。
- 1/26 に、No.223（第 13 回放鳥・6 歳メス）が小佐渡・前浜地区の木に止まった後、飛翔する様子が確認されました。この個体は真野地区などでよく見られていた個体で、島内を大きく移動したようです。
- 1/27 に、真野地区で脚をケガしていると思われる個体が目撃されました。その後、同個体は確認されていませんが、もし傷ついたトキや動けないトキを見つけたら「TEL：090-2324-4019（佐渡自然保護官事務所緊急連絡先）」にご連絡をお願いいたします。



▲降雪の中、木にとまって休むトキ 10 羽



▲金井地区のあぜで採餌する No.237 と飛翔するトキ 1 羽

■本州のトキの動き

- No.04(第 1 回放鳥・11 歳メス)は 2015/11/21 以降、石川県七尾市内で確認されており、2016/1/3 には海岸の岩場で休息する様子などが観察されているほか、2016/1/21 にも水田で採餌したり、木の上で休息する様子が観察されています。
- No.226（第 13 回放鳥・4 歳メス）は 2015/12/21 以降、新潟県新潟市の水田で採餌する様子などが確認されていましたが、2016/1/20 以降確認されていません。

☆トピック ～雪とトキ～

1 月中旬、佐渡島内では広く積雪が見られました。トキは普段、水田などを主な餌場としますが、雪によって田面が覆われた際には、雪で覆われていない水路や、湧水によって雪が溶けている水田などを利用します。冬期間は積雪によって餌場が限定されるほか、渡りの猛禽類なども増加し、トキにとって厳しい季節です。この冬を乗り越え、より多くのトキが春の繁殖期を迎えられることを期待しています。



▲両津地区にて採餌する No.211 と No.213

■生息範囲ごとの個体内訳（1月27日時点） ～島内に152羽程度、本州に2羽～

生息範囲	羽数	オス	メス	性別不明 (野生生まれ)
新穂・両津・ 金井地区	81羽	08 23 50 67 85 87 91 92 98 106 107 108 110 135 136 138 143 146 161 169 170 172 174 176 177 179 186 187 204 209 211 212 213 214 215 216 233 A09 A16 A18 A19 A22 A32	25 26 80 93 95 97 114 120 122 148 149 154 156 157 163 181 182 183 184 192 199 200 202 203 217 219 220 222 224 225 230 232 234 237 A10 A21 A26 A27	20羽
真野・畑野・佐 和田・相川地区	32羽	33 68 72 74 81 205 206 207 A02 A13 A25 A28	38 66 78 96 127 190 195 201 218 223 227 229 239 240 A01 A03 A04 A11 A14 A23	
羽茂地区	14羽	11 48 71 84 86 90 221 238	03 69 79 134 180 A24	
本州	2羽		04 226	
居場所不明	5羽	137 208	231 235 236	
計	154羽	65羽	69羽	20羽

※No.196 が行方不明扱いとなりました。

※太字は若鳥。地区別の羽数に性別不明の個体は含まれていません。

■トキに関するニュース

1月11日 両津地区野浦集落の野浦大神宮で、朱鷺祈願祭が開催されました。

1月15日 「『つなげよう、支えよう森里川海』ミニフォーラム in 佐渡」をトキ交流会館で開催し、60名を超える方にご参加いただきました。新潟大学・豊田光世准教授の特別講演やワークショップを通じて、佐渡の森里川海を活かした地域づくりの“これから”について参加者全員で話し合いました。

1月22日 金井地区の大和集落で、トキとの共生座談会を開催しました。トキの生息環境整備や繁殖期の状況などについて活発な意見交換が行われました。



▲1/15の森里川海ミニフォーラムの様子

■2月の会議・イベント等お知らせ

2月中旬 第10回トキ野生復帰検討会を佐渡島内で開催する予定です。

2月20日 「第2回新潟大学佐渡3施設による森里海シンポジウム」が15時よりトキ交流会館で開催されます。入場無料・事前申込不要。詳細は新潟大学朱鷺・自然再生学研究センターまで（Tel:0259-22-3885）

■佐渡自然保護官事務所からのお知らせ

2月1日 アクティブレンジャーとして相原夏帆が着任しました。

発行者：環境省佐渡自然保護官事務所（0259-22-3372）



■佐渡島内のトキの動き（2016年2月）

佐渡島内では雪が舞う日もありますが、時折春の兆しを感じさせるような、あたたかい日も出てきました。繁殖期に入り、ペアでの行動を始める個体も増えてきています。

- 2月上旬以降、「くちばし交差（互いのくちばしをくわえ合う）」や「枝渡し（枝や木の皮を相手に渡す）」といった求愛行動がたびたび確認されているほか、昨年の巣を訪れて、巣材をつつく様子などが確認されています。
- 2/23 に、今年初となる巣材運びが確認されました。今後は島内各地で枝をくわえて林を出入りするトキが増えてくることとなります。
- 2/27 に、両津地区で右翼が欠損していると思われる個体が目撃されました。その後、同個体は確認されていませんが、もし傷ついたトキや動けないトキを見つけたら「TEL：090-2324-4019（佐渡自然保護官事務所緊急連絡先）」にご連絡をお願いいたします。



▲昨年の古巣をつつく No.107（6歳オス）



▲2羽でくちばし交差をする
No.143（5歳オス）と No.183（3歳メス）

■本州のトキの動き

- No.04（第1回放鳥・11歳メス）は2015/11/21以降、石川県七尾市内で確認されていましたが、2016/2/3には石川県輪島市へ移動したことが確認されています。
- No.226（第13回放鳥・4歳メス）は2015/12/19以降、新潟県新潟市の水田で探餌する様子などが確認されていましたが、2016/1/20以降確認されていません。

☆トピック ～野生復帰の新たな目標について～

2/12に開催された第10回トキ野生復帰検討会において、新たな目標「2020年頃に佐渡島内に220羽のトキを定着させる」を盛り込んだ「トキ野生復帰ロードマップ2020」がおおむね承認されました。

今後は、このロードマップに基づいて、トキを活用した地域づくりやモデル的な生息環境整備、重点的・効率的なモニタリング体制の構築などに積極的に取り組んでいきます。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。



■生息範囲ごとの個体内訳（2月21日時点） ～島内に152羽程度、本州に2羽～

生息範囲	羽数	オス	メス	性別不明 (野生生まれ)
新穂・両津・ 金井地区	86羽	08 23 50 67 85 87 91 92 98 106 107 108 110 135 136 143 161 169 170 172 174 176 177 179 186 187 204 205 207 209 211 212 213 214 215 216 233 A09 A13 A16 A18 A19 A22 A32	25 26 80 93 95 97 114 120 122 148 149 154 156 157 163 181 182 183 184 190 192 199 200 202 203 217 218 219 220 222 223 224 225 230 232 234 237 A03 A10 A21 A26 A27	20羽
真野・畑野・佐 和田・相川地区	26羽	33 68 72 74 81 138 206 A02 A25 A28	38 66 78 96 127 195 201 227 229 239 240 A01 A04 A11 A14 A23	
羽茂地区	14羽	11 48 71 84 86 90 221 238	03 69 79 134 180 A24	
本州	2羽		04 226	
居場所不明	6羽	137 146 208	231 235 236	
計	154羽	65羽	69羽	20羽

※太字は若鳥。地区別の羽数に性別不明の個体は含まれていません。

■トキに関するニュース

- 2月12日 第10回トキ野生復帰検討会をトキ交流会館で開催し、「トキ野生復帰ロードマップ2020」などについて議論が交わされました。（詳細はトピック参照）
- 2月18日 東京都の多摩動物公園から9羽のトキを佐渡トキ保護センターへ移送しました。
- 2月18日 佐渡市の真野中学校の生徒9名が野生復帰ステーションを訪問し、トキの野生復帰事業について学習を行いました。
- 2月24日 新穂地区を流れる天王川の自然再生を進めるための「トキと人の共生を目指した水辺づくり座談会・第6回ワーキンググループ」が開催され、トキが飛来し採餌できるような河川環境へ再生していくための活発な意見交換が行われました。



■3月の会議・イベント等お知らせ

- 3月3日 第14回放鳥に向けた野生復帰ステーション順化ケージでのトキの訓練を開始します。
- 3月12日 トキとの共生座談会が新穂地区の島集落で開催されます。
- 3月13日 朱鷺と暮らす郷づくり推進フォーラムが金井コミュニティセンターで開催されます。
- 3月下旬 人・トキの共生の島づくり協議会が開催されます。



■佐渡島内のトキの動き（2016年3月）

佐渡島内では、各地で枝を運ぶトキの様子が観察されるなど、繁殖行動が盛んになっています。3月末現在、約20ペアの営巣が確認されています。

3月の主な繁殖行動の様子

- 3/10に、今期最初のトキの営巣を確認しました（①No.98/No.156ペア）
- 3/17に、今期最初のトキの抱卵を確認しました（②足環なし/No.201ペア）
- 3/18に、今期最初となる野生下で誕生したトキ同士の営巣が確認され、3/20には抱卵が確認されました（③No.A02/No.A01ペア）

	番号	生まれ年	性別	状況
①	No.98	2010年	オス	3/10 営巣を確認
	No.156	2011年	メス	3/20 抱卵を確認（現在抱卵中）
②	足環なし		オス	3/17 営巣・抱卵を確認（現在抱卵中）
	No.201	2012年	メス	
③	No.A02	2013年	オス	3/18 営巣を確認
	No.A01	2013年	メス	3/20 抱卵を確認（現在抱卵中）

- 繁殖期は、つがいとなる相手を求めて行動圏が広がるため、これまであまり見られなかった地域にもトキが飛来する可能性があります。トキを見かけましたら「TEL：0120-980-551（トキ目撃情報フリーダイヤル）」にご連絡をお願いいたします。



▲営巣・抱卵を確認した No.A02/A01 ペア



▲枝を運ぶ No.85（7歳オス）

■本州のトキの動き

- 3/16に、新潟県長岡市内で No.A11（2歳メス）の飛来が確認されました。No.A11 は2014年に佐渡島の野生下で誕生した個体で、本州側で新たに確認されたトキは15例目となります。No.A11 はその後も長岡市内で確認されていましたが、3/26に佐渡へ戻っていることが確認されています。
- No.04（第1回放鳥・11歳メス）は2015/11/21以降、石川県七尾市内で確認されていましたが、2016/2/3以降石川県輪島市へ移動しています。3/22には電柱で休息する姿などが確認されています。



▲本州に飛来した No.A11（2歳メス）

■トピック～「トキのみかた」と「トキ野生復帰 2015」映像ソフトについて

環境省佐渡自然保護官事務所では、野生トキを適切に観察するための「トキのみかた」リーフレット、トキ野生復帰のこれまでの取組経過をトキの姿とともに映像で紹介する「トキ野生復帰 2015」映像ソフトを制作しました。それぞれ下記からご覧いただけますので、是非ご覧ください。

「トキのみかた」 <http://blog.goo.ne.jp/tokimaster>

「トキ野生復帰 2015」映像ソフト

<https://www.youtube.com/watch?v=LukeeUYpPH4>



■生息範囲ごとの個体内訳（3月27日時点） ～島内に149羽程度、本州に2羽～

生息範囲	羽数	オス	メス	性別不明 (野生生まれ)
新穂・両津・ 金井地区	75羽	08 23 50 67 85 87 91 92 98 106 107 108 110 135 136 143 161 169 170 172 174 176 177 179 186 187 204 205 207 209 212 213 214 215 216 233 A09 A16 A18 A19 A22	25 26 93 95 97 114 120 148 149 154 156 157 163 181 182 183 184 190 192 199 200 202 203 217 218 219 220 224 230 232 239 A10 A23 A27	20羽
真野・畑野・佐 和田・相川地区	30羽	33 68 72 74 81 138 206 A02 A13 A25 A28 A32	38 66 78 96 127 195 201 227 229 234 237 A01 A03 A04 A11 A14 A21 A26	
羽茂・赤泊地区	17羽	11 48 71 84 86 90 211 221 238	03 69 79 134 180 223 240 A24	
本州	2羽		04 226	
居場所不明	7羽	137 146	80 122 222 225 236	
計	151羽	64羽	67羽	20羽

※No.208, 231,235 が行方不明扱いになりました。

※太字は若鳥。地区別の羽数に性別不明の個体は含まれていません。

■トキに関するニュース

- 3月3日 第14回放鳥に向けた順化訓練を順化ケージで開始しました。
- 3月9日 美美（メイメイ）、華陽（ホワヤン）、溢水（イーシュイ）から生まれた4羽のトキを中国に返還しました。
- 3月12日 トキとの共生座談会を新穂地区の島集落で開催し、トキの生息環境や繁殖状況などについて意見交換を行いました。
- 3月24日 人・トキの共生の島づくり協議会が開催され、トキを活用した地域づくりなどについて話し合いました。
- 3月25日 「トキ野生復帰ロードマップ 2020」を公表しました。（詳細はかわら版3月号を参照）
- 3月29日 韓国のトキ放鳥予定地であるセジンマウル町の住民の皆さんが来島し、佐渡におけるトキ野生復帰の取組や生きものを育む農業について現地見学や意見交換を行いました。

■4月の会議・イベント等お知らせ

- 4月14日 全校でトキの学習に取り組んでいる行谷小学校で、トキ講話が行われます。



■佐渡島内のトキの動き（2016年4月）

佐渡島内では、野生下のトキの抱卵に続き、次々とヒナの誕生が確認されています。

また、1976年（昭和51年）以来、40年ぶりとなる、野生下で誕生したトキ同士のペアからヒナが誕生したことを確認しました。

- 4/14 に、今期最初のヒナ誕生を確認しました。この巣では4月末現在、計3羽のヒナを確認しています（①足環なし/No.201ペア）
- 4/21 に、野生下で誕生したトキ同士のペアからヒナが誕生したことを確認しました（②No.A02/No.A01ペア）。4/28に育雛を中止、4/30には抱卵を中止したことを確認しました。



▲ヒナの誕生を確認した No.A02/A01 ペア
（○の部分にヒナがいます）

主なペアの繁殖行動の様子

- 4/25 に、No.195（第11回放鳥・4歳メス）が畑野地区で死亡しているのを確認しました。死因は猛禽類に襲われたことによるものと考えられます。
- 4/28 に、2組目となる野生下で誕生したトキ同士のヒナ誕生を確認しました（③足環なし/足環なしペア）
- 4/30 までに営巣しているペアは全体で39組、うち9組で育雛、28組で抱卵が確認されており、14羽のヒナが確認されています。

	番号	生まれ年	性別	状況
①	足環なし No.201	2012年	オス メス	3/17 営巣・抱卵を確認 4/14 ヒナ2羽を確認 4/22 ヒナ計3羽を確認
②	No.A02 No.A01	2013年 2013年	オス メス	3/18 営巣を確認 3/20 抱卵を確認 4/21 ヒナ1羽を確認 4/28 育雛中止を確認 4/30 抱卵中止を確認
③	足環なし 足環なし	不明 不明		3/31 営巣・抱卵を確認 4/28 ヒナ1羽を確認 4/30 ヒナ計2羽を確認

■本州のトキの動き

- 4/6 に、新潟県長岡市内で足環のないトキ1羽の飛来が、三条市民及び新潟県自然環境保護員によって確認されました。本州で新たに確認されたトキは16例目となります。4/6以降、同個体の行方は分かっていません。
- No.04(第1回放鳥・11歳メス)は2015/11/21以降、石川県七尾市内で確認されていましたが、2016/2/3以降石川県輪島市へ移動しています。4/20には電柱で休息する姿などが確認されています。



▲本州に飛来した足環のないトキ

鈴木新作さん提供

■トピック～ヒナの誕生確認の方法

佐渡島内のトキの動きで紹介したとおり、40 年ぶりに野生下で誕生したトキ同士のペアからヒナの誕生を確認しました。今回のようなヒナ誕生を確認するためには、長時間の観察が必要となります。トキのモニタリングチームでは、長時間観察による繁殖行動への影響を抑えるため、フィールドスコープを取り付けたビデオカメラ（通称：ビデスコ）などを数時間設置し、映像を持ち帰って確認することで、ヒナの姿を確認するなど、条件に応じた様々な方法で観察を行っています。



テント内に設置したビデスコ

■生息範囲ごとの個体内訳（4月28日時点） ～島内に147羽程度、本州に2羽～

生息範囲	羽数	オス	メス	性別不明 (野生生まれ)
新穂・両津・ 金井地区	73羽	08 23 50 67 85 87 91 92 98 106 107 110 135 136 143 161 169 170 172 174 176 177 179 187 204 205 207 209 212 213 214 216 233 A09 A16 A18 A19 A22	25 26 93 95 97 114 120 148 149 154 156 157 163 181 182 183 184 190 192 199 200 202 203 217 218 219 220 224 230 232 237 239 A10 A23 A27	19羽
真野・畑野・佐 和田・相川地区	27羽	33 68 72 74 81 138 206 A02 A13 A25 A28 A32	38 66 78 96 127 201 227 234 A01 A03 A04 A11 A14 A21 A26	
羽茂・赤泊地区	17羽	11 48 71 84 86 90 211 221 238	03 69 79 134 180 223 240 A24	
本州	1羽		04	1羽
居場所不明	11羽	108 146 186 215	80 122 222 225 226 229 236	
計	149羽	63羽	66羽	20羽

※No.137 が行方不明扱いになりました。

※太字は若鳥。地区別の羽数に性別不明の個体は含まれていません。

■トキに関するニュース

- 4月14日 トキの学習に取り組んでいる行谷小学校で、自然保護官を講師としたトキ学習が行われました。トキの生態などの基本的な知識をはじめ野生のトキの観察方法などを、全校生徒60名が学び、トキの森公園でのトキガイドなどに活かす予定です。
- 4月18日 石川県のいしかわ動物園から6羽のトキを佐渡トキ保護センターへ移送しました。

■5月の会議・イベントのお知らせ

- 5月2日 行谷小学校の児童がトキ森公園でのトキガイドを行いました。

発行者：環境省佐渡自然保護官事務所（0259-22-3372）



■佐渡島内のトキの動き（2016年5月）

佐渡島内では、トキのヒナのベビーラッシュとなっています。5月に入り、ヒナの巣立ちも続々と確認されています。

また、野生下で誕生したトキ同士のペアから生まれたヒナもすくすくと成長しており、今後は1974年以来42年ぶりとなる巣立ちが期待されています。

- 5/16に、野生下生まれ同士のペア（足環なし/足環なしペア）のヒナ3羽に個体識別のための足環（No.A43～A45）を装着する作業を行いました。今後は、装着した足環の識別により、行動圏や繁殖状況などを把握することになります。
- 5/18に、今期最初のヒナの巣立ちを確認しました（足環なし/No.201ペア）。この巣では計3羽のヒナの巣立ちを確認しており、現在は林内を動き回っている様子が観察されています。
- 5/31までに5組が巣立ち、13組が育雛、5組が抱卵していることが確認されており、合計11羽の幼鳥と29羽のヒナの生存が確認されています。
- このうち、野生下生まれ同士のペアは3組が育雛中で、7羽のヒナの生存が確認されています。



▲今期最初のヒナの巣立ち(3羽)を確認した足環なし/No.201ペア



▲親鳥に餌をねだるヒナ2羽（足環なし/足環なしペア）

■本州のトキの動き

- No.04(第1回放鳥・11歳メス)は、2016/2/3以降石川県輪島市で定期的に確認されています。5/28には水田でカエルやオタマジャクシを採餌する姿などが確認されています。

■トピック～巣立ち後のヒナの行方～

5/18に、今期初となるヒナの巣立ちを確認しました。環境省ではトキのヒナの巣立ちを「両脚を巣の外に完全に出すこと」とし、巣立ち後のヒナを「幼鳥」と呼んでいます。

“巣立ち”＝“独り立ち”ではなく、自力で餌をとれるようになるまでは、親鳥から餌をもらう状態が続きます。巣立ち直後は、巣と近くの枝とを行ったり来たりしながら、羽ばたく力をつけ、飛翔できるようになると親鳥と一緒に地上に降ります。その後は、水田などで親鳥の真似をしながら、採餌する力を身につけ、自力で餌がとれるようになって、ようやく“独り立ち”します。これから夏にかけて大きく成長する幼鳥の様子を、温かく見守りましょう。



地上に降下して間もない幼鳥（2014年、No.08/25ペア）

■生息範囲ごとの個体内訳（5月29日時点） ～島内に146羽程度、本州に2羽～

生息範囲	羽数	オス	メス	性別不明 (野生生まれ)
新穂・両津・ 金井地区	76羽	08 23 50 67 85 87 91 92 98 106 107 110 135 136 143 161 169 170 172 174 176 177 179 187 204 205 207 209 212 213 214 215 216 221 233 A09 A16 A18 A19 A22 A32	25 26 93 95 97 114 120 148 149 154 156 157 163 181 182 183 184 190 192 199 200 202 203 217 218 219 220 223 224 225 230 232 237 A23 A26	19羽
真野・畑野・佐 和田・相川地区	26羽	33 68 72 74 81 138 206 A02 A13 A25 A28	38 66 78 96 127 201 227 234 239 A01 A03 A04 A10 A14 A21	
羽茂・赤泊地区	16羽	11 48 71 84 86 90 211 238	03 69 79 134 180 240 A11 A24	
本州	1羽		04	1羽
居場所不明	9羽	108 146 186	80 122 222 226 229 A27	
計	148羽	63羽	65羽	20羽

※No.236 が行方不明扱いになりました。

※太字は若鳥。地区別の羽数に性別不明の個体は含まれていません。

■トキに関するニュース

- 5月2日 行谷小学校の児童がトキの森公園でのトキガイドを行いました。
- 5月23日 新潟県トキ保護募金推進委員会総会が新潟市内で開催され、佐渡島内における今後のモデル的な生息環境整備などに関する制度が改正されました。
- 5月26日 2000年に誕生した飼育トキ No.21(愛愛、16歳・メス)が死亡しました。愛愛は1999年に来日したヨウヨウとヤンヤンの3番目の子でした。死亡要因は卵管閉塞及び腹膜炎によるものと考えられます。
- 5月28日 佐渡の在来生物を守る会が、大佐渡山地・ドンデン山周辺の高山植物等を守るため、外来植物である「フランスギク」の駆除作業を行いました。
- 5月31日 新穂地区を流れる天王川の自然再生を進めるための「第14回トキと人の共生を目指した水辺づくり座談会」が開催されました。

■6月の会議・イベントのお知らせ

- 6月10日 第14回トキ放鳥を実施します。3ヶ月の訓練を終えた18羽（オス16羽、メス2羽）が佐渡の空へ飛び立つ予定です。
- 6月18・19日新穂地区・潟上温泉周辺で潟上ホテル祭りが開催される予定です。
- 6月下旬 第15回放鳥に向けた順化訓練を開始する予定です。



▲順化訓練では、ケージ内の池で田植えを行い、農作業に慣れさせる訓練も行いました

発行者：環境省佐渡自然保護官事務所（0259-22-3372）



■佐渡島内のトキの動き（2016年6月）

佐渡島内では、巣立った幼鳥が親鳥と一緒に水田へ降り、餌を探す様子などが観察されています。

また、1974年以来42年ぶりとなる、野生下で誕生したトキ同士のペアから生まれたヒナの巣立ちも確認されています。

- 6/1 に、野生下生まれ同士のペア（足環なし/足環なしペア）のヒナ2羽（No.A43,44）の巣立ちを確認しました。その後、6/6に残る1羽（No.A45）も巣立ち、計3羽が無事巣立ちました。
- 6/6 に、今期最初となる幼鳥の地上への降下を確認しました（No.68/ No.78 ペアの幼鳥 No.A34）。
- 6/31 までに18組で巣立ち、1組で育雛が確認されており、合計37羽の幼鳥と、2羽のヒナが確認されています。このうち、野生下生まれ同士のペアは3組巣立ち、6羽の幼鳥が確認されています。
- 6/10 に、第14回トキ放鳥を開始しました。放鳥初日に15羽、4日目に残る3羽が飛翔し、計18羽が放鳥されました。



▲巣立ちした No.A43,44,45
（足環なし/足環なし）ペア



▲親鳥に餌をねだるヒナ
（足環なし/No.A21 ペア）



▲新たに放鳥された No.254（2歳・オス）

■本州のトキの動き

- No.04(第1回放鳥・11歳メス)は、2016/2/3以降石川県輪島市で定期的に確認されています。6/18には水田で採餌する姿などが確認されています。

■トピック～足環のないトキ～

野生下で生まれたトキのヒナには、個体識別のための足環装着を可能な限り実施していますが、営巣木へ登ることが困難であったり、近接して別の巣がある場合など、条件によっては足環の装着を見送ることもあります。

足環未装着のまま巣立った幼鳥は、その後の観察で「足環のない個体」としてカウントを行い、同時確認数によって個体数の把握を行っています。しかし、年々「足環のない個体」が増加し、同時確認で把握しきれない状況となってきました。今後は、日々の観察状況から個体数の推定を行うことで、野生トキ全体の個体数の把握に努める予定です。



水田で採餌する足環のない幼鳥
（2016年生まれ）

■生息範囲ごとの個体内訳（6月28日時点） ～島内に161羽程度、本州に2羽～

生息範囲	羽数	オス	メス	性別不明 (野生生まれ)
新穂・両津・ 金井地区	90羽	08 23 50 67 85 87 91 92 98 106 107 110 135 136 143 161 169 170 172 174 176 177 179 186 187 204 205 207 209 212 213 214 215 221 233 241 242 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 A16 A18 A19	25 26 93 95 97 114 120 148 149 154 156 157 163 181 182 183 184 190 192 199 200 202 203 217 218 219 220 224 225 230 232 237 258 259 A23 A26	19羽
真野・畑野・佐 和田・相川地区	33羽	33 68 72 74 81 138 206 216 A02 A09 A13 A22 A25 A28 A32	38 66 78 96 127 201 223 227 234 239 A01 A03 A04 A10 A11 A14 A21 A27	
羽茂・赤泊地区	15羽	11 48 71 84 86 90 211 238	03 69 79 134 180 240 A24	
本州	1羽		04	1羽
居場所不明	4羽	108	222 226 229	
計	163羽	78羽	65羽	20羽

※No.80,122,146が行方不明扱いになりました。

※太字は若鳥。地区別の羽数に性別不明の個体は含まれていません。

※2016年生まれの幼鳥は含まれていません。

■トキに関するニュース

6月10日 第14回トキ放鳥を開始し、13日までの4日間で、3ヶ月の訓練を終えた18羽（オス16羽、メス2羽）が佐渡の空へ飛び立ちました。

6月22日 東京大学大学院生約20名が、野生復帰ステーションを訪れ、トキ野生復帰事業の状況や順化訓練の様子などについて理解を深めました。

6月23日 第15回放鳥に向けた順化訓練を開始しました。今回の訓練個体はオス5羽、メス14羽の計19羽です。9月下旬の放鳥を目指して、探餌・飛翔などの訓練を行います。

6月24日 新穂地区の行谷小学校の児童が河川や田んぼの生きもの調査を行いました。

6月25日 朱鷺と暮らす郷づくり推進フォーラムが開催され、生きもの調査に関する講演やトキ野生復帰の現状について報告が行われました



▲行谷小学校の生きもの調査の様子

■7月の会議・イベントのお知らせ

7月14・15日 第22回全国棚田（千枚田）サミットが佐渡島内で開催されます。

7月28日 佐渡・能登里山里海交流会で、能登の小学生が佐渡に来島し、トキの森公園や野生復帰ステーションなど島内各地を訪問します。



■佐渡島内のトキの動き（2016年7月）

佐渡島内では、巣立った幼鳥が行動範囲を大きく広げ、既存の群れに混じって餌をとる様子などが確認されています。

- 7/8 に育雛中となっていた最後のペア1組で巣立ちを確認し、2016年の野生トキ繁殖期が終了しました。
- 今期は53組の営巣が確認され、そのうち25組から53羽のヒナが誕生し、さらにそのうちの19組から39羽が巣立ちました。（下表参照）また、野生下生まれ同士のペアによるヒナの巣立ちが、昭和49年以来42年ぶりに実現しました。
- 野生下生まれ同士のペアは3組巣立ち、6羽の幼鳥が確認されました。

	個体数*	ペア数 (参加メス数)	巣の数	ふ化数	巣立ち数
2012	41	18 (16)	23	8	8
2013	53	24 (21)	34	14	4
2014	96	35 (32)	38	36	31
2015	136	38 (33)	46	21	16
2016	152	53 (53)	60	53	39



▲水田に降下する幼鳥
(No.A34,A35,A36,A37,A54)



▲休耕田で採餌する No.A35
◀2012年以降の繁殖期の結果表

■本州のトキの動き

- No.04(第1回放鳥・11歳メス)は、2016/2/3以降石川県輪島市で定期的に確認されています。7/18には休耕田で採餌する姿などが確認されています。

■トピック～夏のごはん処～

トキは季節によって、餌をとる場所を変えます。その大きな理由は、主な餌場である水田に関係しています。春の田植え前後や秋の稲刈り後の水田は、餌を採りやすい場所となり、多くのトキが水田に入ってドジョウなどを食べています。一方で夏の水田は稲が成長し、水田の中に入ることができなくなります。そんな時にトキが利用するのが、水田と水田を分ける「あぜ」です。

佐渡では、農家の方の努力によって、除草剤を使わず“緑のあぜ”を保っている場所が多く見られます。この緑のあぜこそが、生きものを育み、夏にはトキがミミズなどの動物を捕まえる重要な餌場になっているのです。佐渡の水田をご覧になる際は是非「あぜ」に注目してみてください。



■生息範囲ごとの個体内訳（7月25日時点） ～島内に198羽程度、本州に2羽～

生息範囲	羽数	オス	メス	性別不明 (野生生まれ)
新穂・両津・ 金井地区	92羽	08 23 50 67 85 87 91 92 98 106 107 110 135 136 143 161 169 170 172 174 176 177 179 186 187 204 205 207 209 212 213 214 215 221 233 241 242 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 A09 A16 A18 A19	03 25 26 93 95 97 114 120 148 149 154 156 157 163 181 182 183 184 190 192 199 200 202 203 217 218 219 220 223 224 230 232 237 258 259 A23 A26	58羽
真野・畑野・佐 和田・相川地区	31羽	33 68 72 74 81 138 206 216 A02 A13 A22 A25 A28 A32	38 66 78 96 127 201227 234 239 A01 A03 A04 A10 A11 A14 A21 A27	
羽茂・赤泊地区	14羽	11 48 71 84 86 90 211 238	69 79 134 180 240 A24	
本州	1羽		04	1羽
居場所不明	3羽	108	222 225	
計	200羽	78羽	63羽	59羽

※No.226,229 が行方不明扱いになりました。

※太字は若鳥。地区別の羽数に性別不明の個体は含まれていません。

※2016年生まれの幼鳥は性別不明（野生生まれ）の羽数に含まれています。

■トキに関するニュース

7月14・15日第22回全国棚田（千枚田）サミットが佐渡島内で開催されました。

7月24日 あいぽーと佐渡で、千羽トキの詩コンサートが開催されました。

7月28日 佐渡・能登里山里海交流会で、能登と佐渡の小学生59名が、トキの森公園や野生復帰ステーションなどを訪問し、トキや佐渡の環境について学びました。



野生復帰ステーションを訪れた
能登と佐渡の小学生

■8月の会議・イベントのお知らせ

8月上旬 第9回トキ飼育繁殖小委員会が開催される予定です。

8月17日 長岡市トキと自然の学習館で、「佐渡における野生下トキの繁殖及び生態とパークレンジャー体験」が開催されます。詳しくは長岡市トキと自然の学習館まで（Tel: 0258-75-3201）

8月27日 両津地区・岩首集落で、第10回竹灯りの集いが開催されます。（17時頃開始@岩首談義所）

■佐渡自然保護官事務所からのお知らせ

8月1日をもちまして、約2年半の間トキかわら版を担当していた遠矢が異動となりました。かわら版読者の皆様、ありがとうございました。9月号からは、後任の佐藤が担当いたします。引き続きトキかわら版をよろしくお願いいたします。



■佐渡島内のトキの動き (2016年8月)

稲穂が色づく季節になりました。トキにとっては、水田の中に入ることが難しくなりますが、ビオトープやあぜを活用し、上手に餌を採っている様子が観察されています。

➤ トキの今期巣立ち数が 39→40 羽に！

今期の野生下のトキ巣立ち数は、39羽とお知らせしていましたが、巣立ち前に行方不明になったと考えられていた No.A56 の姿が 8/13 に確認されました。同じ巣から巣立った No.A55 を含む他の幼鳥や成鳥と一緒に観察されました。これにより、今期の巣立ち数は 40 羽となりました。

➤ 6月の放鳥以来、行方がわからなかった No.256 が、市民からの情報をもとに、ほとんど目撃がなかった外海府方面で 8/31 に確認されました！貴重な目撃情報は TEL:0120-980-551 (トキ目撃情報フリーダイヤル) までお願いします。

➤ 真野地区で 8/25 に 44 羽のトキがねぐらから出ていく様子が観察されました。繁殖期が終わり、今年生まれのトキも大人に混ざって群れになっています。



▲農道で採餌する No.23, 26



▲木にとまる今年生まれの No.A43



■本州のトキの動き

➤ No.04(第1回放鳥・11歳メス)は、2016/2/3以降石川県輪島市で定期的に確認されています。川辺でエサを食べる姿や電柱で休む姿などが確認されています。

◀まとまって飛翔するトキたち

■トピック～トキのみかた～

秋になるにつれて、トキは群れで行動することが多くなります。十数羽程度で飛翔する姿や、稲刈り後の水田で餌を採る姿などが見られるかもしれません。

トキを見かけた際は、「トキのみかた」を思い出してください。トキはおくびょうな性格です。人が近づくと驚いて飛び立ち、餌を十分食べられなくなってしまうこともあります。トキがトキらしくいられるように「遠くから見守る」。これまで佐渡で築いてきた、人とトキが共生できるちょうど良い関係が広がっていくよう、これからもご協力をお願いします。

「トキのみかた」掲載先

<http://blog.goo.ne.jp/tokimaster>



トキの味方になるために

- ・ 近づかず、やさしく静かに見守りましょう
- ・ 地域に迷惑をかけないようにしましょう
農地に無断で入らないようにしましょう
- ・ 車から降りずに観察しましょう
- ・ 大きな音や光を出さないようにしましょう
など

■生息範囲ごとの個体内訳（8月25日時点） ～島内に197羽程度、本州に2羽～

生息範囲	羽数	オス	メス	性別不明 (野生生まれ)
新穂・両津・ 金井地区	125羽	08 23 50 67 85 87 91 92 98 106 107 110 135 136 138 143 161 169 170 172 174 177 179 186 187 176 204 205 207 209 212 213 214 216 233 241 242 244 247 248 249 250 251 252 253 254 255 257 A02 A09 A13 A16 A18 A19 A22 A25 A28 A32 A34 A38 A43 A46 A48 A50 A53 A55 A57 A59 A60	03 25 26 93 95 97 114 120 148 149 154 156 157 163 181 182 183 184 190 192 199 200 202 203 217 218 219 220 223 224 230 232 234 237 239 258 259 A03 A04 A10 A11 A14 A21 A23 A26 A33 A36 A44 A45 A47 A49 A54 A56 A58 A61 A62	31羽
真野・畑野・佐 和田・相川地区	19羽	33 68 72 74 81 206 245 A35 A39 A40	38 66 78 96 127 201 227 A01 A37	
羽茂・赤泊地区	15羽	11 48 84 86 90 211 221 238 A42	69 79 134 180 240 A24	
本州	1羽		04	
居場所不明	7羽	71 215 246 256	225 A27 A51	1羽
計	199羽	92羽	75羽	32羽

※No.108, 222 が行方不明扱いになりました。

※太字は幼鳥。地区別の羽数に性別不明の個体は含まれていません。

■トキに関するニュース

8月9日 第9回トキ飼育繁殖小委員会が開催され、今後のトキの飼育等について、活発な議論が交わされました。

8月17日 長岡市トキと自然の学習館で、「佐渡における野生下トキの繁殖及び生態とパークレンジャー体験」が開催され、長岡市の小学生が、トキの観察方法などを学びました。

8月27日 両津地区・岩首集落で、第10回竹灯りの集いが開催されました。島外からも環境整備など行う学生が参加し、大盛況でした。



▲パークレンジャー体験 ▼竹灯りの集い



■9月の会議・イベントのお知らせ

9月1日 第11回トキ野生復帰検討会を佐渡島内で開催します。

9月下旬 第15回放鳥を予定しています。

■佐渡自然保護官事務所からのお知らせ

はじめまして。8月から自然保護官として着任した佐藤知生（さとうちお）と申します。今月号からトキかわら版を担当します。佐渡でトキが野生に戻りつつあるのは、長い間、多くの方々が力を尽くしたからこそ。トキはその小さな体に、たくさんの想いを乗せて大空にはばたいているようにも見えました。まだ佐渡に来て間もないですが、トキの力強いはばたきに負けないよう頑張っていきたいと思えます。まずはみなさまのお話を聴くことからと思っていますので、お気軽にご連絡ください。これから、どうぞよろしくお願いいたします。

発行者：環境省佐渡自然保護官事務所（0259-22-3372）





■佐渡島内のトキの動き（2016年9月）

だんだんと涼しくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。稲刈りが始まり、刈田に降りてエサ探すトキが観察されています。季節の変わり目ですが、たくさん食べて元気に過ごしてほしいものです（トキも、そして読者のみなさまも）！

➤ 第15回放鳥、19羽のトキが佐渡の空へ

放鳥初日の9/23に17羽、9/24に残った2羽と一緒に飛翔し、計19羽（オス5羽、メス14羽）のトキが佐渡の空に放されました。今回はふれあいプラザで育ったNo.265（愛称：ときわ）、No.266（愛称：うみ）も含まれており、放鳥されたトキたちが今後どのような動きを見せてくれるか注目です。

➤ ねぐら出カウント調査により約180羽を確認

3日間にわたって全島で集中的に調査を行い、計180羽程度のトキがねぐらから出て行くところが観察されました。島内にいる推定197羽のトキのうち90%以上が確認できたこととなります。特に、真野地区でトキが多く観察されました。

➤ 6月の放鳥以来、行方がわからなかったNo.246が羽茂地区で、確認が少なかったNo.258が小木地区で確認されました。

■本州のトキの動き

➤ No.04(第1回放鳥・11歳メス)は、石川県輪島市で定期的に確認されていましたが、あまり動かない様子が観察され、9/11以降、姿が確認されていません。何か情報があればお寄せください。



▲何を話しているのでしょうか？



▲刈田でエサを探す No.219



▲みんなでエサを探しています

■トピック～放鳥直後のトキ～



▲羽に緑と青の色をつけた No.272

放鳥するトキにはすぐに見分けられるよう羽に色をつけていますが、その飛び方でも、新しく放鳥されたトキとわかることがあります。野外に長くいるトキは目的地に向かってまっすぐ飛ぶのに比べ、放鳥されたばかりのトキは、ふらふらとどこへ行こうか迷っているような様子。飛ぶスピードも少し遅いようです。初めての景色を目に焼き付けているのでしょうか。見慣れないところでトキを目撃した場合や、羽に色のついたトキを見かけたら、TEL:0120-980-551（トキ目撃情報フリーダイヤル）まで。

▼空の彼方へ飛んでいく No.277



■生息範囲ごとの個体内訳（9月27日時点） ～島内に216羽程度、本州に2羽～

生息範囲	羽数	オス	メス	性別不明 (野生生まれ)
新穂・両津・ 金井地区	127羽	08 23 50 67 85 87 91 92 98 106 107 110 135 136 143 161 169 170 172 174 177 179 187 176 204 205 207 209 212 213 214 216 221 233 241 242 247 248 249 251 252 253 254 255 257 243 260 261 263 267 A02 A09 A13 A16 A18 A19 A22 A34 A38 A43 A48 A50 A55 A57 A59 A60	03 25 26 93 95 97 114 120 148 149 154 156 157 163 181 182 183 184 190 192 199 200 202 203 217 219 220 224 230 232 234 237 259 262 264 265 266 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 A01 A10 A21 A23 A26 A33 A44 A45 A49 A54 A56 A58 A61 A62	31羽
真野・畑野・佐 和田・相川地区	37羽	33 68 72 74 81 138 206 244 245 256 A25 A28 A32 A35 A39 A40 A46 A53	38 66 78 96 127 201 218 223 227 239 240 A03 A04 A11 A14 A36 A37 A47 A51	
小木・羽茂・赤 泊地区	15羽	11 48 84 86 90 211 238 246 A42	69 79 134 180 258 A24	
本州	1羽		04	
居場所不明	6羽	71 186 215 250	225 A27	1羽
計	218羽	97羽	89羽	32羽

※太字は幼鳥。地区別の羽数に性別不明の個体は含まれていません。

※赤色は今回（第15回）の放鳥個体です。



◀▼大正大学訪問の様子
(写真提供：大正大学)

■トキに関するニュース

- 9月1日 第11回トキ野生復帰検討会を佐渡島内で開催し、トキのこれからの取組について積極的な議論が交わされました。
- 9月21日 大正大学地域創生学部の学生8名が野生復帰ステーションを訪問し、トキが舞う佐渡の環境の価値について理解を深めました。
- 9月23日 第15回放鳥が開始され、24日までに全19羽のトキが力強く飛び立ちました。
- 9月27日 佐渡トキ保護センターで飼育トキの定期健康診断が行われました。



トキ健康診断の様子▶

■10月の会議・イベントのお知らせ

- 10月9日 佐渡市新穂行政サービスセンターで「鬼太鼓 in にいぼ・朱鷺夕映え市」が開催されます。
 - 10月15日 野生復帰ステーションの一般公開が行われます。
- お問い合わせ・申し込みはTEL:0259-24-6151（野生復帰ステーション）まで。

■ひとりごと（編集後記）

佐渡に着任して早2か月が経ちました。すっかり秋めいてしまっ、汗だくで引っ越し作業をしていたころがずいぶん昔のことのよう。黄金色の稲穂と鮮やかになった朱鷺色の姿に心惹かれる毎日です。9月はなんと言っても放鳥。新たな旅立ちを今か今かと待ちわびて、最後の2羽が無事に飛翔した時の喜びはひとしお。次々に飛んでいくトキを見分ける観察技術に圧倒され、こうして佐渡にトキたちが暮らしていけるのは、関係者のみなさまをはじめ、野生復帰を見守ってくださる多くの方々のおかげと、改めて実感しました。

発行者：環境省佐渡自然保護官事務所（0259-22-3372）



トキかわら版が読者のみなさまに支えられながら、記念すべき第 50 号を迎えました。深く感謝申し上げます。佐渡は朝が冷え込むようになり、あっという間に冬が到来しそうです。トキたちは稲刈りの終わった田んぼなどに降りる様子が観察されています。

■佐渡島内のトキの動き（2016 年 10 月）

➤ 第 15 回放鳥トキ、続々と確認

9 月に放鳥されたトキのうち、ふれあいプラザで育った No.265（愛称：ときわ）、No.266（愛称：うみ）など大多数のトキが放鳥された地元？の新穂地区で群れに混ざる様子が確認されています。No.264 は羽茂地区で確認されていますが、まだ独りです。



▲飛翔する 4 羽

- 6 月の放鳥以来、確認が少なかった No.247 が外海府で確認されたほか、内海府で確認されていた No.250 が佐和田地区で確認されました。
- 十数羽の群れで行動するトキが見られるようになりました。トキ色も鮮やかで、秋空に映えます。



▲海を見つめる外海府の No.247



▲エサを探す No.250

■本州のトキの動き

- 9 月に放鳥されたトキ 2 羽が本州に No.269（第 15 回放鳥・2 歳メス）が新潟県弥彦村で、No.276（第 15 回放鳥・1 歳メス）が新潟県長岡市で確認されました。今後の動きに注目です。
- 石川県で観察されていた No.04（第 1 回放鳥・11 歳メス）は 10 月中の確認情報がありませんでした。



▲No.269／▶No.276
本州に飛来した 2 羽

※いずれも放鳥時に佐渡島内で撮影



■トピック～トキの速さ～



▲渡ってきたマガンの群れ

トキは時速 40～50km の速さで飛ぶといわれています。カーフェリーより少し早いくらい。本州に飛来したトキは、はるばる海を越えたと思うと、そのフロンティア精神に感服です。また、渡りの季節が到来し、マガンやコハクチョウなどが、はるかロシアから飛んできています。コハクチョウの速さは平均時速 50km ほどなので、トキも小さい体にしてはなかなか頑張っているのかもしれません。

■生息範囲ごとの個体内訳（10月25日時点） ～島内に214羽程度、本州に3羽～

生息範囲	羽数	オス	メス	性別不明 (野生生まれ)
新穂・両津・ 金井地区	127羽	08 23 50 67 85 87 91 92 98 106 107 110 135 136 138 143 161 169 170 172 174 177 179 187 176 204 205 207 209 212 213 214 221 233 241 242 245 247 248 249 251 252 253 254 255 243 260 263 267 A09 A16 A18 A19 A32 A34 A35 A38 A39 A43 A46 A48 A50 A53 A55 A57 A59 A60	03 25 26 93 95 97 114 120 148 149 127 154 156 157 163 181 182 183 184 190 192 199 200 201 202 203 217 218 219 220 224 230 232 234 237 239 240 259 262 265 266 268 271 272 273 274 275 A01 A21 A23 A26 A33 A45 A47 A49 A54 A56 A58 A61 A62	31羽
真野・畑野・佐 和田・相川地区	35羽	33 68 72 74 81 206 216 244 250 256 257 261 A02 A13 A22 A25 A28 A40	38 66 78 96 223 227 270 277 A03 A04 A10 A11 A14 A36 A37 A44 A51	
小木・羽茂・赤 泊地区	16羽	11 48 84 86 90 211 238 246 A42	69 79 134 180 258 264 A24	
本州	3羽		04 269 276	
居場所不明	5羽	71 186 215	225 A27	
計	217羽	97羽	89羽	31羽

※本州で確認された性別不明個体が行方不明扱いになりました。
※太字は幼鳥。地区別の羽数に性別不明の個体は含まれていません。

■トキに関するニュース

10月15日 野生復帰ステーションの一般公開に約40名が参加され、普段は見られない順化ケージ内を見学し、トキの飼育方法や野生下の状況などに耳を傾けました。

10月19日 長岡市トキ分散飼育センターから佐渡トキ保護センターへ3羽のトキが移送されました。

10月22日 トキファンクラブ10名が野生復帰ステーションを訪問し、トキについて研修されました。

10月22日 飼育トキ No.27（15歳・オス）が死亡しました。肺炎による窒息が原因と考えられます。

10月26日 多摩動物公園から佐渡トキ保護センターへ5羽のトキが移送されました。

10月29日,30日 佐渡在来生物を守る会が外来種であるバス駆除作業とシンポジウムを行いました。

■11月の会議・イベントのお知らせ

11月6日 佐潟20ラムサールフェスが新潟市で開催されます。

11月中旬 第10回トキ飼育繁殖小委員会を開催します。

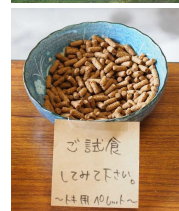
11月19日 佐渡市環境フェア2016が10時からサンテラ佐渡スーパーアリーナにて開催されます。

11月19日 新潟大学 佐渡三施設 森里海公開シンポジウムが13時半からあいぽーと佐渡で開催されます。

■佐渡保護官事務所からのお知らせ

- ・11月から自然保護官補佐（アクティブ・レンジャー）として原奈緒子が着任しました。
- ・発行第50号の節目を迎え、こちらからも読者のみなさまに楽しんでいただけるかわら版を目指し、記事内容を改めて考えていきたいと思ひます。取り上げてほしいテーマやご意見・ご感想などありましたら、お気軽にご連絡ください。

発行者：環境省佐渡自然保護官事務所（0259-22-3372）

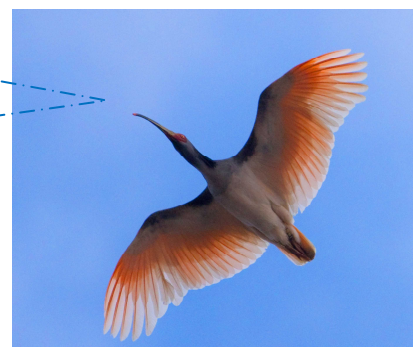


▲野生復帰ステーションの一般公開

トキの近況をお知らせする月報「トキかわら版」の第 50 号を記念し、“かわら”をもじって、たくさんの方に、絶滅から甦りつつあるトキを知っていただきたいという想いから「トキかわや版」を発行しました。

■トキ (Nipponia nippon)

江戸時代までは日本中に生息していましたが、狩猟や開発などの影響で数が減り、1981 年、飼育下でトキを増やすため、佐渡に残った 5 羽を捕まえ、日本のトキは野生絶滅。その後、1999 年に中国から譲り受けたトキから数が増え、最後の生息地「佐渡」で、トキを野生に帰す試みが始まりました。



▲「とき色」といわれる淡い桃色の羽

■トキの「いま」

2008 年 飼育されたトキを野生に放す「放鳥」を開始

2012 年 野生下で 36 年ぶりにヒナが誕生

2016 年 野生下で生まれたトキ同士のペアから「純野生トキ」が巣立ち
野生のトキの数は約 **200 羽**！（2016 年 12 月現在）



▲42 年ぶりに巣立ちした純野生トキ



▲エサを探す黒い繁殖羽のトキ

繁殖：2～6 月が恋の季節である繁殖期♥

首のまわりからはがれた皮膚をこすりつけて羽を黒くする、世界でトキだけの羽色変化を見せます。

ペアで交代して卵を温め、生まれたヒナはオレンジ色の顔と、灰色の羽が特徴です。

▼佐渡の空に舞う 6 羽のトキ



生活：夜明けとともに、群れの仲間とねぐらの林を出発。田んぼでドジョウや昆虫を食べたり、木にとまって休んだり…人の生活のすぐそばにある里地里山で暮らしています。

■トキの野生復帰が意味するもの

再びトキが舞う佐渡の空—

それを実現できたのは、生き物を育む農業や、トキに影響のない観察ルールなど、トキが生きられる環境づくりを、地域一体で進めてきたからこそ。

トキが野生にいることは、そこに、色々な生き物が育まれ、豊かな自然があるということの意味します。野生復帰は、トキという種を超え、人と自然とが共に生きていくかたちを、私たちに伝えているのではないのでしょうか。

まだ道なかばであるトキ野生復帰。安定してトキが生きられるよう「2020 年頃に、佐渡島内に 220 羽のトキを定着（1 年以上生存）させる」という目標に向け、今日もトキたちは力強く羽ばたいています。

※「トキかわら版」は HP「**放鳥トキ情報**」<http://blog.goo.ne.jp/tokimaster> からご覧いただけます。



いよいよ佐渡に冬が到来してきました。トキたちは寒さにも負けず、群れの仲間と元気に過ごしているようです。これから始まる恋の季節に備えて、おめかし（羽色変化）をするトキも増えてくるのでしょうか。

◀飛翔する4羽



▲ビオトープで採餌する No.251

■佐渡島内のトキの動き（2016年11月）

- ねぐら出カウント調査により約8割のトキを確認
3日にわたり集中的にトキの数を調査し、島内の8割にあたる約170羽のトキがねぐらから出ていくところを確認しました。9月の調査では9割近くが確認されていたため、観察されていないねぐらの存在や、生息域の広がりが考えられました。
- 駆け落ち！？外海府側の2羽♥
群れから離れて No.256（2歳オス）、No.277（1歳メス）の2羽が外海府側で一緒に行動する姿が目撃されています。人間でいうと駆け落ちのようにも見えますが、恋に発展するのでしょうか。



▲外海府の No.256 と No.277

■本州のトキの動き

- 6月放鳥のトキが山形県に飛来
これまで小木地区で観察されていた No.258（第14回放鳥・1歳メス）が山形県鶴岡市で確認されました。
- 新潟県弥彦村で確認されていた No.269（第15回放鳥・2歳メス）は、残念ながら三条市で死亡が確認されました。長岡市に飛来している No.276（第15回放鳥・1歳メス）は、田んぼで採餌する姿などが観察されています。
- 石川県で確認されていた No.04（第1回放鳥・11歳メス）は最終確認から2か月がたったため、居場所不明扱いとなりました。

▼長岡市で撮影された No.276



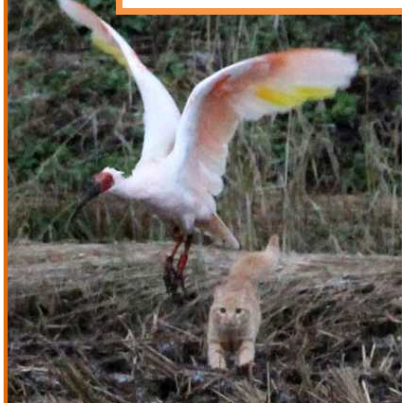
■トピック～ネコにも負けないトキ～

ふれあいプラザ生まれで9月に放鳥された No.274 にネコが大接近。一部始終をご紹介します。

①ネコが接近し警戒



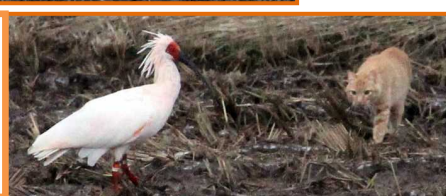
②ニヤンと危機一髪！



③ひらりと避けます



④あまり動じず、すぐ近くに降りました



※最後はネコがあきらめて去っていきました

■生息範囲ごとの個体内訳（11月29日時点） ～島内に211羽程度、本州に3羽～

生息範囲	羽数	オス	メス	性別不明 (野生生まれ)
新穂・両津・ 金井地区	107羽	08 23 50 67 85 87 91 92 98 106 107 110 135 136 143 161 169 170 172 174 177 179 187 176 204 205 207 209 212 213 214 221 233 241 242 245 247 248 249 251 252 254 255 257 260 263 267 A09 A16 A18 A19 A34 A38 A46 A48 A50 A55 A57 A59 A60	25 26 93 95 97 114 120 148 149 154 156 157 163 181 182 183 184 190 192 199 200 202 203 217 218 220 224 230 232 237 259 262 265 266 268 272 273 274 275 A10 A26 A33 A47 A51 A56 A58 A62	31羽
真野・畑野・佐 和田・相川地区	52羽	33 68 72 74 81 138 206 216 244 250 253 256 243 A02 A13 A22 A25 A28 A32 A35 A39 A40 A43 A53	38 66 78 96 127 201 219 223 227 234 239 240 270 277 A01 A03 A04 A11 A14 A21 A23 A36 A37 A44 A45 A49 A54 A61	
小木・羽茂・赤 泊地区	15羽	11 48 84 86 90 211 238 246 A42	69 79 134 180 264 A24	
本州	2羽		258 276	
居場所不明	7羽	186 215 261	03 04 271 A27	
計	214羽	96羽	87羽	31羽

※No.71, 225 が行方不明扱いになりました。

※太字は幼鳥。地区別の羽数に性別不明の個体は含まれていません。

環境フェア
の様子▶

■トキに関するニュース

※鳥インフルエンザが県内はじめ国内複数個所で発生しているため、島内のトキ飼育施設で消毒が行われるなど、対策を強化しています。

11月18日 第10回トキ飼育繁殖小委員会が長岡市で開催され、飼育トキの繁殖計画などが議題となりました。

11月19日 佐渡市環境フェア2016が開催され、トキを紹介するブースにも多くの方が訪れました。新潟大学の佐渡三施設 森里海公開シンポジウムが開催され、森里海のつながりの重要性などをテーマに講演がありました。

11月22日 出雲市トキ分散飼育センターから佐渡トキ保護センターに5羽のトキが移送され、佐渡トキ保護センターから出雲市トキ分散飼育センターに2羽のトキを移送しました。

11月27日 野生復帰ステーションのある新穂正明寺地区でそば祭りが行われました。ルー大柴さんをゲストに生物多様性佐渡戦略推進フォーラムが行われました。



▲そば祭りの子供鬼太鼓／生物多様性フォーラム▲

▼鳥インフルエンザ対策

■12月の会議・イベントのお知らせ

12月中旬 第12回トキ野生復帰検討会を新潟市で開催します。

12月13日 日中韓トキ国際会議を新潟市で開催します。



■ひとりごと（編集後記）

早々とインフルエンザにかかりました。だんだん流行してきますので、みなさま、くれぐれも体調管理にお気をつけください。

発行者：環境省佐渡自然保護官事務所（0259-22-3372）